

報告 平成28年度筑波大学社会貢献プロジェクト 「東北3県柔道キャラバン」活動報告

著者	川戸 湧也, 増地 克之, 小野 卓志, 秋本 啓之, 内田 暁, 川口 優大
著者別名	Kawato Yuya , Masuchi Katsuyuki, Ono Takashi, Akimoto Hiroyuki, Uchida Akira , Kawaguchi Yudai
雑誌名	大学体育研究
巻	39
ページ	69-70
発行年	2017-03
その他のタイトル	Reports Social action work by University of Tsukuba at 2016 report of "jUDO Caravan in 'Tohoku"
URL	http://hdl.handle.net/2241/00145913

平成 28 年度筑波大学社会貢献プロジェクト 「東北 3 県柔道キャラバン」活動報告

川戸湧也¹⁾, 増地克之²⁾, 小野卓志²⁾,
秋本啓之³⁾, 内田 暁¹⁾, 川口優大¹⁾

1. はじめに

本学柔道部では、東日本大震災の被災地域である岩手県・宮城県・福島県の 3 県を対象に、地域活力の復興とコミュニティの活性化を目的として、「東北 3 県柔道キャラバン」(以下、本事業)を実施した。この事業は当該地域の子ども達に対して柔道指導を行うとともに本学柔道部がこれまで蓄積してきた柔道指導法研究の成果を地域の柔道指導者に伝達するものである。

本稿では平成 28 年 12 月 26 日から 2 日間にわたって実施された本事業の報告を行う。

2. 実施期間

平成 28 年 12 月 26 日(月)～12 月 27 日(火)

3. 実施場所

福島県立田村高等学校(福島県田村郡三春町字持合畑 135)

4. 講師

- ①増地克之(体育系准教授)
- ②小野卓志(体育系特任助教)
- ③秋本啓之(了徳寺大学;平成 23 年修了)
- ④栗野靖浩(平成 27 年修了)
- ⑤川戸湧也(大学体育スポーツ高度化共同専攻

1 年次)

- ⑥内田暁(教科教育専攻 1 年次)
- ⑦川口優大(体育学専攻 1 年次)
- ⑧長倉友樹(センコー株式会社;平成 28 年卒業)
- ⑨三戸雄生(体育専門学群 4 年次)

5. 参加者

本事業への参加者は 2 日間を通して総勢 94 名であった。1 日目は田村高等学校柔道部を中心に、34 名が参加した。2 日目は前日同様、田村高等学校柔道部が中心であったが、東北高等学校、日本大学東北高等学校など県内外の小学生から高校生など 60 名が参加した。

6. 実施内容

12 月 26 日(月)

14:00 整列・挨拶

増地氏より本事業の趣旨について説明が行われ、講師陣の紹介が行われた。

14:10 準備体操

田村高等学校柔道部の指揮によって準備運動が行われた。

14:30 固技における“秋本返し”の講習

秋本氏により“秋本返し”の説明が行われた。なお、“秋本返し”とは秋本氏が現役時代に得意としていた固技である。

1) 筑波大学大学院人間総合科学研究科

2) 筑波大学体育系

3) 了徳寺大学

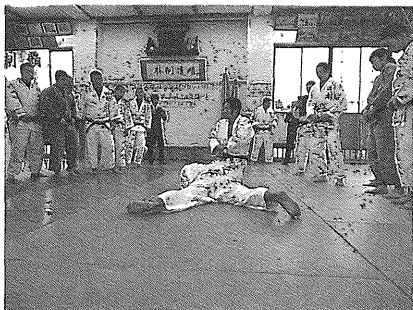


図1 秋本氏による「秋本返し」の講習

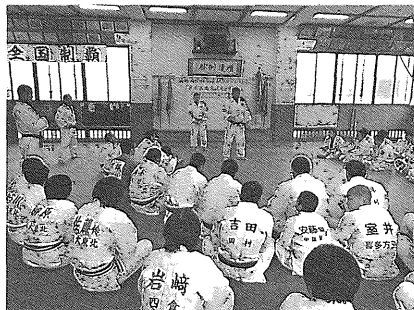


図2 講師（三戸氏）による講話

15：10 投技の講習

はじめに小野氏より「内股」の講習が行われ、続けて秋本氏より「背負投」の講習が行われた。

16：00 自由稽古

講師陣全員が参加し、参加者との自由稽古が行われた。自由稽古では4分間の乱取を12本実施し、17時に本日の日程を修了した。

12月27日（火）

9：00 整列・挨拶

参加者が昨日よりも増えたため、改めて増地氏より本事業の趣旨について説明が行われ、講師陣の紹介が行われた。

9：10 準備体操

田村高等学校柔道部の指揮によって準備運動が行われた

9：30 講話

小野氏、秋本氏、粟野氏、三戸氏から柔道に対する取り組み方についての講話が行われた。

10：20

固技の講習

長倉氏、三戸氏より固技における返し方について講習が行われた。

11：00 自由稽古

講師陣全員が参加し、参加者との自由稽古が行われた。自由稽古では2分間の乱取を20本実施し、12時にすべての日程が修了した。

7. 総括

昨年の南相馬スポーツセンターに引き続き、

2年続けての福島訪問となった。両日とも、本学柔道部がこれまでに蓄積してきた技術ならびに指導方法研究の成果を伝達することができた。特に今回の主な参加者は高校生であったため、より発展的かつ実践的な技術の指導となった。指導者においては我々の指導の様子をタブレット端末などで撮影し、一連の指導について記録を行なってもらったことも新しい取り組みである。

今年度で4年目を迎えるこの取り組みであるが、毎年のことながら、子ども達の熱心に学ぶ姿、真摯に柔道に取り組む姿に感動をさせられた。また指導者においても、私たちが子ども達に行った指導方法あるいは指導をする際のポイントについて熱心に学んでいた様子があり、我々としては微力ながらも被災地における柔道環境の復興の一助になっている実感を得られつつある。

東日本大震災から6年が経過し、被災地においては復旧から復興そして発展と元の生活を取り戻しつつあるが、まだまだその道は半ばではないだろうか。一度失われた地域の活力は6年という時間を経過しても完全に取り戻すにはまだ時間が必要となるのではないだろうか。今後も引き続き、東北3県における柔道の普及、振興、発展に注力していきたい。

最後に、本事業の実施にご尽力をいただいた関係各位に御礼を申し上げて、報告とさせていただきます。